

特別収蔵展

『浜松の俳人たち 今も息づく先駆者たちの思い』開催中



『浜松文芸館』の収蔵対象者資料『浜松文芸十人の先駆者』の中で、俳人として紹介されている五人、「松島十湖」「加藤雪腸」「原田濱人」「相生垣瓜人」「百合山羽公」の書、短冊、書籍等を中心に展示しています。

彼らの業績は現在も引き継がれ、『みづうみ』『海坂』『椎』や自由律俳句『層雲』などの俳誌が浜松で発刊され、多くの人たちが俳句を楽しみ、学び続けています。

本展をとおして、広く市民の皆様にも「浜松と俳句」の関わりを知っていただけたら幸いです。

なお、展示品の中には、「正岡子規」「小林一茶」「山頭火」など著名な俳人の短冊、武者小路実篤の直筆の掛け軸も展示しています。

***** 文芸館主催の講座紹介 *****



＜川柳入門講座の様子＞

平成27年度の講座が始まっています。

前は『文学講座（春）一雨月物語を読む』の紹介をしましたが、今回は、『川柳入門講座』と『文章教室Ⅰ』をご紹介します。

『川柳入門講座』は、川柳を初めて学ぼうという人のための講座です。川柳の知識や作り方・鑑賞の仕方について楽しく学んでいます。

講師は、今田久帆先生（浜松川柳社「いしころ会」会長）。

『文章教室Ⅰ』も始まりました。「文章の書き方を、書きながら学ぶ」、大人向けの講座です。

随筆や自分史をもっとすてきに書くヒントを、書いて直して学びます。

講師は、たかはたけいこ先生（エッセイスト 浜松百撰連載中 アップルハウス代表）です。

「文章教室Ⅱ」、「文章教室Ⅲ」も予定しています。

是非、ご参加ください。お問い合わせは、浜松文芸館053-453-3933まで。



＜文章教室Ⅰの様子＞

井上靖と浜松 11

級友が語る沼津中学転校直後の靖

家族と離れてひとり、郷里伊豆の湯ヶ島で、祖父潔の愛人だったかの婆さんと二人だけの土蔵暮らしを送っていた靖は、かのに溺愛されながら、自然児として村の子どもたちと思うどち遊び呆けていた。父の転勤にともない、小学校6年の3学期浜松に移り、初めて両親・妹弟と暮らすことになった。家族という緊張感、医者の子として課せられる中学受験の重圧、それに加えて、未知の土地で一人の友人もいない浜松での生活はさぞ大変だったことだろう。

1年浪人して猛勉強の結果トップで入学、優等生として浜松中学校で一年間を過ごしたが、2年から郷里に近い沼津中学校に転校、1年間三島の親戚の家から通学することになった。転校してきたばかりの靖は、同級生の目にどのように映っていたのであろうか。

同級生磯山正は初対面の日のことを

その日彼は少し猫背気味の姿勢に、青味がかった羅紗の学生帽をかぶり、爪先をひきずる様な歩き方をして、兵隊靴の鋸の音をさせながら教師の後から教室に入ってきた。そして私達に紹介されたが、子供ながらすでに骨格ががっしりしていて、えらく几帳面そうで、折り目正しい秀才風を感じを受けた。その日のうちにどこかの連隊長の息子だという噂がたったが、正にそんな風格があった。

(新潮社「井上靖文庫」月報)

と書いている。芹沢光治良文学館館長をつとめた露木豊は、

当時、転校生というと東京からが多く、これらの転校生は金ボタンにラシャの洋服姿が多かった。井上は、われわれ田舎町の学生と同じ小倉の服だったので、どこから来た？と聞いてみた。浜松の中学から一こんな返事が返ってきたが、帽子をアマダにかぶり、兵隊ぐつのようなものをはいて、いかにも無口で孤独な感じのする生徒だった。

(「わが青春の日々」毎日新聞社静岡支局)

と述べている。井上靖には、終生孤独の影がつきまどっていたように思えるが、この頃からそうだったことがわかる。書いたものを読むと、心から母に甘えた思い出がほとんどないことが起因しているようにも思われる。三島からの通学仲間増田潔は、

井上は、われわれより少し小柄であった。色は白く、アゴがいささか長く、前に突き出ているので、全体がシャクレ顔であった。笑うと銀の前歯が光った。われわれに比べると、何となくあか抜けがしていて、都会的な雰囲気をも分にただよわせていた。「夏草冬濤」では、主人公洪作少年は、おくての少年で、「お前は何にも知らないんだなあ」とよく友達から、時には小林、増田の二人からさえいわれている。然し実際はその逆で、井上はわれわれの知らない事を色々沢山知っていた。英習字の通信教育の雑誌を東京から、真先に取り寄せたのも彼であった。(略) 又彼は話好きであった。三人集まると、彼は、手振り、身振りを交えて、面白、おかしく、色々な話を二人に話してくれた。話がはずむと、彼は唇の角に泡をためるくせがあった。只彼の話は時に余りに誇張されすぎて、一種のホラ話になることもしばしばである。

という。三人の感想からは、浜松時代の靖少年の様子がよく偲ばれる。